

## Ⅱ 連携・交流事業

### 1) 地域交流事業

#### 地域交流事業 1 食農教育実践支援事業 枝豆農業体験

担 当 者：食物栄養学科 専任講師 長屋 郁子

主 催：JA ぎふ、岐阜県農政部、全岐阜県生活協同組合連合会

開催日時：平成 31 年 4 月 18 日（木）～令和元年 10 月 4 日（金）

会 場：岐阜市曾我屋 JA ぎふ合渡支店前選果場、岐阜市西郷枝豆農家、  
岐阜市立女子短期大学 栄養指導 Lab（3-101）

参加者数：約 30 名

岐阜市の特産野菜の一つである枝豆は、本学近隣地域で生産されている。学生たちが身近な地域で農業体験をすることによって、ものづくりの重要性和困難さを学び、「食」の意味について理解を深めるため、本事業は 2012 年度より継続して行われている。毎年、JA ぎふ、農産物生産者の方々、岐阜県農政部、全岐阜生協連の皆さまの温かいご支援により成り立っている。例年ピーチクラブの学生を中心に参加者を募っているが、本年度はクラブ以外の学生にも声をかけ参加者を募った。

4 月 18 日（木）に本事業に関心のある学生が自主的に集まり、「岐阜えだまめ紹介 DVD」の鑑賞、岐阜県農林事務所の高井氏、JA ぎふ営農部山田氏より岐阜市の枝豆についてレクチャーを受けた。また、全岐阜生活協同組合連合会の河原氏より、今後の計画について説明を受けた。定植体験は、5 月 7 日（火）に JA ぎふ山田氏の指導のもと行われた。次いで 6 月 15 日（土）は、永田氏、高橋氏 2 名の生産者の圃場で、収穫・選別といった農作業を半日にわたり体験した。7 月 13 日（土）には枝豆選果場で行われる JA ぎふ主催の枝豆収穫体験祭にスタッフとして参加し、試食用の枝豆を茹でて来場者に味比べをしてもらうなど、1,000 名を超える来場者で賑わう収穫祭運営を支える体験をした。参加した学生からは、「生産者の方の枝豆づくりへの熱い思いを感じられた。枝豆が元気よく成長するように色々工夫されていることを知り、生産者の努力があって私たち消費者に届けられていることを直接肌で感じる事ができてよかった。」「昨年度に引き続き参加したが、収穫祭の来場者が昨年より増え、岐阜の枝豆がどれだけ美味しいかということを実感した。収穫祭では 2 種類の枝豆の食べ比べができるが、味や食感が全然違った。」などの感想が寄せられた。これら一連の体験については、10 月 4 日（金）の活動報告会にて報告し、意見交換も行った。

## 地域交流事業２ 学生とのリノベーションの実践

担 当 者：生活デザイン学科 助教 臼井 直之

主 催：岐阜市立女子短期大学臼井研究室

株式会社サツキライフクリエーション

開催日時：令和元年４月５日（金）～令和元年５月３１日（金）

会 場：皐月会館

参加者数：約３名

柳ヶ瀬商店街にある昭和４０年代に建てられたビルの４階をリノベーションする中で、遊休不動産活用の知見を得る事と、建築技術の習得を目的としたプロジェクトである。

設計、材料調達、加工を自分たちで行う中で、木材や塗料などの建築材料の種類や特徴、安全な工具の使い方など、空間を作るために必要な基礎を丁寧に学びながら実際に作業し、学びを深めた。

商店街の人が作業の様子を見に来てくれるなど、地域の人と学生、教員との交流のきっかけにもなった。



リノベーション前



作業風景



作業風景



リノベーション後



リノベーション後

### 地域交流事業3 援農プロジェクト「ワーキングホリデーin 長良ぶどう」2019

担 当 者：食物栄養学科 准教授 堀 光代

主 催：JAぎふ長良支店、岐阜市園芸振興課長良ぶどう部会

開催日時：令和元年5月25日（土）～6月23日（日）の希望日

会 場：岐阜市長良雄総周辺ぶどう畑

受講者数：15名

岐阜市の長良地区は古くからのぶどうの生産が行われているが、生産農家の高齢化が進んできている。そのため、ぶどう農家の方への手助けとともに、若い人に農業への理解を深めてもらうことを目的として、援農プロジェクト「ワーキングホリデーin 長良ぶどう」が2013年からスタートした。

本学の学生は初年度よりこの援農プロジェクトに参加してきた。これまでの参加者は毎年15名～20名程度であったが、2017年4名、2018年3名と参加者の減少傾向がみられた。そのため、主催者からこれまで1日単位だった実施日に半日コースを加え、参加しやすい体制で実施することになった。今年度は、全体で15名の参加者となり、内訳は半日コース6名、1日コース9名であった。

学生が担当した主な仕事は、ぶどう園にネットを張る作業、種なしぶどうを作るためのジベレリン処理、虫や鳥などの被害からぶどうを守るためのぶどうの傘かけ作業であった。ジベレリン処理は、高校の生物等で理論を学習していることから、興味を持って実際の作業に取り組むことができた。傘かけ作業は、腰にペーパーとホチキスが入ったエプロンを巻き、やり残しがないように後ろ向きに進みながら1つ1つ丁寧に行った。

学生からの感想では、「暑い場所での作業がとても大変だったが、農家の方は毎日この作業をしていることに驚いた」、「農家の方たちがぶどうを大切に育てている気持ちが伝わってきた」、「1房のぶどうにこれほどの多くの手間と時間がかかっていることを知った」などがあり、食べ物に感謝する気持ちや農業の面白さや楽しさも知ることができたと記されていた。「今まで何気なくお店で野菜や果物を買っていましたが、これからはもっと興味を持ちたいと思いました。」とあり、学生が農家の方と交流することにより、多くの学びがみられた。

## 地域交流事業 4 皐月座・柳ラボお披露目会

担 当 者：生活デザイン学科 助教 臼井 直之

主 催：岐阜市立女子短期大学臼井研究室

株式会社サツキライフクリエーション

開催日時：令和元年 6 月 1 日（土）19：00～21：00

会 場：皐月会館

参加者数：約 50 名

学生とリノベーションを実践して完成させた柳ラボ・皐月座のお披露目会を開催した。リノベーションの関係者のみならず、多くの街の方にもお越しいただいた。

リノベーションに関する写真展示の他に、臼井研究室の在学生と生活デザイン学科卒業生の計 4 人が、”女子が注目するさまざまなデザイン”というテーマで発表と意見交換を行った。女性が何を考えているのかを街の人に対してお話しし、世代や立場の枠を超えての知識の共有ができた。



オープニング



交流スペース



展示スペース

## 地域交流事業5 柳ヶ瀬商店街の実態調査

担 当 者：生活デザイン学科 助教 臼井 直之

主 催：岐阜市立女子短期大学 臼井研究室

開催日時：令和元年6月～8月

場 所：柳ヶ瀬商店街

参加者数：4名

柳ヶ瀬商店街のレンガ通り沿いの建物がどのように利用されているのかを調査した。多くの人がなんとなく知っているつもりでいることを数値化する。それが目的である。

調査にあたり、一般財団法人岐阜市にぎわいまち公社の白橋様、関様に対象地の安全性等の相談をした。また、ヒアリング調査では、レンガ通りで働く方を含め、多くの街の方のご協力をいただいた。

研究の本旨ではないが、地域の人と知り合いになることで学生と柳ヶ瀬商店街との距離が縮まったように思う。



実測調査のようす



ヒアリングのようす

番号	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
階数	2	1	1	1	1	2	4	4	3	4	3	3	2	3	1	2	3	3	3	4
5階																				
4階																				
3階																				
2階																				
1階																				
地下1階																				

番号	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
階数	4	2	2	4	4	4	4	4	4	5	4	3	3	3	4	2	1
5階																	
4階																	
3階																	
2階																	
1階																	
地下1階																	

1階

2階

3階

4階

5階

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

住

調査結果の一部



## 地域交流事業6 柳ヶ瀬本通り盆踊りコンテストへの参加

担 当 者：生活デザイン学科 助教 臼井 直之

主 催：ぎふ柳ヶ瀬夏祭り実行委員会

開催日時：令和元年8月10日（土）17：00～20：00

会 場：柳ヶ瀬商店街

参加者数：17名

柳ヶ瀬商店街で開催された『ぎふ柳ヶ瀬夏まつり』に、柳ヶ瀬本通りでの盆踊りが20年ぶりに復活した。生活デザイン学科の学生と柳ヶ瀬商店街で活躍される若手たちとの合同チームは、盆踊りコンテストに参加した。

学生たちが、地域のイベントへ積極的に参加する事でさまざまな人と触れ合い、これから地域を担う社会の一員としての自身の立ち位置を再確認できると良いと思う。



## 地域交流事業 7 高校生のための街なかオープンカレッジ 2019 in 岐阜

担 当 者：岐阜大学地域科学部 教授 富樫 幸一

准教授 三谷 晋

生活デザイン学科 助教 臼井 直之

主 催：岐阜大学地域科学部・岐阜市立女子短期大学

開催日時：令和元年 8 月 10 日（土）10：30～15：30

会 場：みんなの森 ぎふメディアコスモス みんなのホール

皐月座

受講者数：20 名

地域に学びの場を提供する事を目的としたオープンカレッジを開催した。

午前の部は、『公共施設のつくりかた』というテーマとした。みんなの森 ぎふメディアコスモスのホールを題材に、設計者がホール空間を設計する際に考えることを説明した。午後の部は、『新旧織りなすまちの魅力』というテーマとした。ぎふメディアコスモスから柳ヶ瀬商店街までを歩きながら岐阜の街を観察し、まちの成り立ちを地理学の視点から解説した。その後、得られた知見を共有するためのワークショップを行った。



高校生のための街なかオープンカレッジ in 岐阜

岐阜大学地域科学部と岐阜市立女子短期大学が  
地域に開かれた学びの場を提供します!!

□ プログラム

[午前の部: 10時30分から12時頃]

『公共施設のつくりかた』  
臼井直之 (岐阜市立女子短期大学)

“みんなの森 メディアコスモス みんなのホール”を題材に、  
設計者がホール空間を設計する際に考えることを説明します。

[昼食: 12時頃から13時頃]

[午後の部: 13時頃から15時30分頃]

『新旧織りなすまちの魅力』  
富樫幸一 (岐阜大学)

メディアコスモスから皐月座まで歩きながら街を観察し、  
まちの成り立ちを地理学の視点から解説します。  
さらに、柳ヶ瀬商店街での新たな動きと将来の展望について  
皆で議論するワークショップを行います。

□ 日時 : 2019年8月10日(土) 10時30分集合～15時30分解散

□ 会場(午前の部) : みんなの森 メディアコスモス みんなのホール

(午後の部) : 皐月座 (皐月会館4F)

□ 会場

みんなの森 メディアコスモス 皐月座(皐月会館4F)

主催：岐阜大学地域科学部・岐阜市立女子短期大学・岐阜県立大学 / 後援：岐阜県・岐阜市

## 地域交流事業 8 わくわく家事 LAB（ラボ） ～楽しく学ぼう！科学×洗濯～

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 太田 幸一

主 催：岐阜市市民参画部男女共生・生きがい推進課男女共生推進係

開催日時：令和元年 8 月 25 日（日）10:00～13:30

会 場：岐阜市立女子短期大学 学生ホール・D. 実験 Lab2

参加者数：8 組 19 人

岐阜市は共働き世帯の増加や核家族化が進むなど社会構造の変化により男性も家事・育児に参画する必要が高まっていることから「男の家事力 UP 化」を推進している。今回は家事の一つである洗濯についての男性も参加できるようにとのことでワークショップを行った。「大学の先生に学ぶ洗濯の A・B・C」～科学の視点で洗濯の知識を学ぶ～と題し、災害時にも役立つ手洗いによる洗濯の実験と、アイロン実習、汚れを落とす実験のワークショップを行った。グループ分けをし、各グループで洗剤の量等の条件を変え、汚れの落ち具合の比較を行い、洗剤を正しく計ることや洗濯物を入れすぎないことなどの理由を体験してもらった。また、自身で洗濯したハンカチのアイロン掛けの実施し、アイロンがけのコツを学んでもらった。さらに、セーター類を普通洗いすると縮むのはなぜかについて、羊毛フェルトボールの作成を体験してもらった。





## 地域交流事業 9 市役所南庁舎のウィンドウでの衣装作品展示

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 中谷 友机子  
准教授 太田 幸一

主 催：岐阜市役所

開催日時：令和元年 9 月 2 日（月）～10 月 31 日（木）

会 場：市役所南庁舎

昨年に続いて、生活デザイン学科・ファッション専修・衣装作品展示をおこなった。今年は、期間を 3 期に区切り、各期 2 作品ずつを展示した。

3 期を「ホームウェア」「フェミニン」「エレガンス」と 3 テーマに分けて展示した。

市役所南庁舎ウィンドウは、長良橋通りに面しており、バス停前ということもあり、作品を観ていただく機会が多い。そのため、卒業制作作品の展示は広報も兼ねて良い機会となった。

## 地域交流事業 10 こよみのよぶね 2019 9 月行灯制作と参加

指導教員：生活デザイン学科 准教授 畑中 久美子

主 催：こよみのよぶね 2019 年実行委員会（総合プロデューサー：日比野克彦）

開催日時：令和元年 12 月 22 日（日）16：00～21：39

制作期間：令和元年 9 月 25 日（水）13：00～14：30

会 場：長良川右岸プロムナード付近

制作学生数：8 名

2006 年から続く、一年で一番夜が長い冬至の日に、1～12 の数字とその年の干支の行灯を長良川に流すイベント「こよみのよぶね 2019」の 9 月行灯制作を、畑中ゼミの 1 年生が行った。

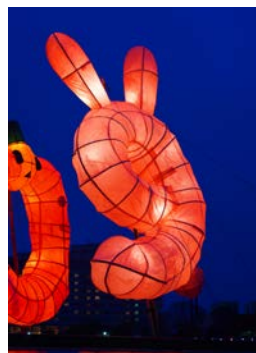
デザイン案は学生が各自 1～2 案持参、プレゼンテーションし、ゲストにアーティストの日比野光希子氏を迎えて学内コンペを実施し、決定した。様々なコンセプトとデザイン画が披露されたが、採択された宮崎さんの案は、「9 月はお月見を行う月なので、ピンクのうさぎの形状の 9 とした。」ものである。大きなシートに原寸大のデザイン画を描き、それに沿って竹を組み立てた。行灯が巨大となり、搬出時に階段から下ろせず、吹き抜けを吊るして下ろすなど、手を動かしながら考え、その時々判断を下しながら 8 名の学生が無事に行灯を作り上げた。

イベント当日は他の月の行灯制作チームの方々と、行灯を長良川に浮かべた。

学内での制作、イベントをとおして地域の方々と繋がりを持つ活動となった。



制作風景



こよみのよぶね当日、川に浮かんだ 9 月の行灯

（右 2 枚写真：HomeCame 藤代誉士）

## 地域交流事業 1 1 第 63 回 ぎふ信長まつり武者行列参加

担 当 者：食物栄養学科 専任講師 山田 紀子

主 催：岐阜市

開催日時：令和元年 10 月 6 日（日）9：00～15：00

会 場：岐阜市内

参加者数：13 名

平成 13 年より、ぎふ信長まつり実行委員会(岐阜市役所商工観光部内)からの依頼で、信長公騎馬武者行列の腰元役に本学学生が参加している。今年は、13 名の学生が参加した。腰元には、3 種類の衣装が用意されており、菅笠に杖、小袖に袴、薙刀、そして袴姿で矢を担ぎ、弓を持つ役である。早朝から着付け、食事、写真撮影の後、騎馬武者行列の一員として、JR 岐阜駅南の清水緑地公園を出発し市役所を経て、岐阜公園まで向かう。当日は、10 月にも関わらず、気温 30 度を超す真夏日で、炎天下の中での武者行列となったが、学生たちには学生生活の思い出となる良い経験になった。



## 地域交流事業 12 第 18 回 祭いこまい中山道河渡宿 参加

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 中谷 友机子  
准教授 太田 幸一  
助教 柴田 佐和子  
教授 服部 宏己

主 催：合渡まちづくり協議会・中山道河渡宿の会

開催日時：令和元年 10 月 27 日（日）

会 場：杵築神社（岐阜市河渡）

参加者数：生活デザイン学科 1 年 18 名

五街道の一つである中山道の宿場町、河渡宿を内外にアピールして、宿場のにぎわいを復興するという趣旨で開催されている。毎年 10 月の最終日曜日に開催され、同時期に本学では桃林祭が開催されることから、地域振興への貢献と本学の活動のアピールを兼ね、ファッション専修 1 年が桃林祭で披露したファッションショーの衣装をメインステージで披露した。



## 地域交流事業 13 「かがしマルシェ」ワークショップ ～文化と食に触れるお寺マルシェへの協力・提案～

担 当 者：生活デザイン学科 教授 服部 宏己  
助教 臼井 直之

主 催：かがしマルシェ実行委員会（後援：岐阜市教育委員会）

開催日時：令和元年 11 月 16 日（土）11：00～15：00

会 場：鏡島弘法（瑞甲山乙津寺）

受講者数：10 名（本学学生）

西岐阜エリアにある鏡島弘法は、毎月 21 日に縁日が開かれ、特に高齢者の人々の憩いの場となっている。「マルシェ」とはフランス語で、直訳すると「市場」を指すが、近年、飲食店を経営する若者がデザイン性にも配慮し”創客”を目論んだイベントである。また、マルシェを通して地域の隠れた名店の開拓ができるため、最近特に若者に人気のある催し物である。普段は高齢の方が多いお寺で若者に人気のマルシェを開くという計画（お寺マルシェ）に本学学生が参加協力した。

準備段階では、①ブース装飾の提案・作成、②会場内サイン計画の提案・作成を行った。マルシェ当日は、ピラミッド型の屋根形状のブースの設営補助と会場内サインの設置に加え、受付や飲食店の手伝いなど、イベント全体を円滑に進めるための補助を担当した。老若男女を問わず予想をはるかに上回る人々でにぎわい、学生にとって貴重な地域貢献活動となった。



ブースの装飾と飲食店手伝いの様子



## 地域交流事業 1 4 無印良品高島屋店との yanagase PARK LINE への 出店

担 当 者：生活デザイン学科 助教 臼井 直之

主 催：岐阜市

開催日時：令和元年 11 月 17 日（日）10：30～16：00

会 場：柳ヶ瀬商店街

参加者数：約 20 名

YANAGASE PARK LINE は、公共交通と歩行者空間を融合する事業において、道路空間の新たな空間活用の企画・運営を実施する試みである。

無印良品と臼井研究室は、ワークショップを実施しながら、無印良品高島屋店の店舗前をどのように活用できるか検討し、コンセプトとコンテンツ決め、準備から当日の運営、片付けを行った。

当日は「パーソナルカラー診断と MUJI メイク体験」「ありがとうを贈ろう ギフトラッピング」「大きな残布にお絵かき」「カリモク端材アニマルづくり」「イ草プール」等の多岐にわたるコンテンツを運営し、大盛況であった。



## 地域交流事業 15 鶺田神社拝殿内「尾なし龍」立像の修繕プロジェクト

主 催：生活デザイン学科 メディアデザイン研究室

開催日時：令和元年 12 月 7 日（土）12：00～17：00

会 場：鶺田神社

受講者数：約 16 名

平成 13 年に岐阜市文化支援活動の一環として創作音楽劇「尾なし龍」が公開された。それに使用された龍の立像を、民話のもととなった鶺田神社（岐阜市東鶺）へ平成 29 年 4 月に移設、奉納することとなった。拝殿内に設置されたもの、経年劣化や台風時の風雨など、破損が著しかったため、民話「尾なし龍」保存会からの依頼のもと、ヴィジュアル専修メディアデザイン研究室の教員・学生が耐候性等を考慮し、修繕を実施した。年始には本殿も公開され、昇殿参拝が可能な神社であり、その本殿には三代目左甚五郎作と伝えられている木彫の尾なし龍も拝観できることから、毎年多くの参拝者が訪れる。



修繕後の「尾なし龍」立像



修繕前

## 地域交流事業 16 令和元年度 生活デザイン学科 卒業研究・制作展

主 催：生活デザイン学科

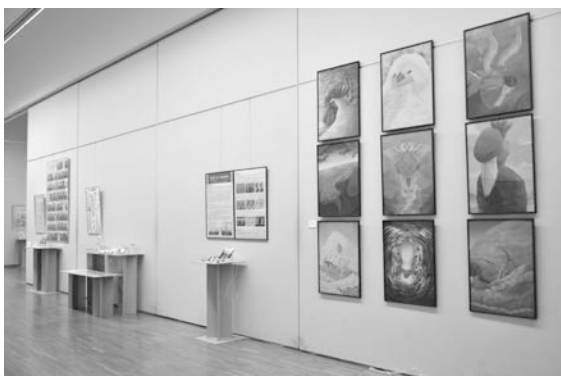
開催日時：令和元年 12 月 17 日（火）～12 月 22 日（日）

10:00～18:00（最終日は 15:00 まで）

会 場：岐阜県美術館 県民ギャラリー

入場者数：827 名（在学生含む）

本学での 2 年間の学びの集大成として、各専修の学生が独自のテーマを定めて研究に取り組み、成果としての論文や作品を展示した。ファッション専修では「色の錯視を反映させる衣服のデザイン」や「体温変化を軽減させる衣服」、建築・インテリア専修では「認定子ども園を併設する集合住宅」や「黒野城の南側にある工場跡地の再開発計画」、ヴィジュアル専修では「非常食に取り入れる防災パッケージカバー」や「女子小学生のためのアルゴリズム教材」など、各専修の特性を活かした多彩な成果物が発表された。



## 地域交流事業 17 令和元年度 生活デザイン学科 卒業研究発表会 (研究発表・ファッションショー)

主 催：生活デザイン学科

開催日時：令和元年 12 月 26 日（木）

13:00～16:00

会 場：みんなの森 ぎふメディアコスモス みんなのホール

入場者数：82 名（在学生除く）

前週に行われた卒業研究・制作展に続いて、卒業研究発表会（研究発表／研究室発表／ファッションショー）を行った。研究発表は 2 名、研究室発表は 39 名、ファッションショー発表作品は 28 点だった。





## 地域交流事業 18 ワークショップ「みんなでつなごう十八楼」の開催

指導教員：非常勤講師 庵原 義隆

生活デザイン学科 准教授 畑中 久美子

生活デザイン学科 助教 臼井 直之

制作期間：令和2年1月10、18、25日（金） 13：00～16：10

会場：岐阜市立女子短期大学 3-407 演習室 25日のみ十八楼

制作学生数：約43名

建築・インテリア設計演習Ⅰ・Ⅲでは、毎年岐阜市内の実際の場所を課題敷地とし、研究・教育の一環として街の観察や調査を行った上で、1・2年生が共同で制作・提案をおこなう短期ワークショップを実施している。

今回は老舗旅館「十八楼」を対象とした。鶺鴒乗り場の近くにあり観光の要であるこの旅館は創業160年を迎え、繰り返しの増築が行われている。将来、東京一名古屋間のリニア開業など時代の変化などを想定して、今から10年後の旅館がどうなるべきか、この旅館の今後の建物のあり方を考え、自由な発想で提案を行った。対象箇所はロビー、お風呂、客室のリニューアルである。

15日の講評会には、本学の教員のほか、十八楼の女将、地域で商売を行う方など多くの視点からの意見が寄せられた。



エントランスからロビー空間の提案

(写真:ToLoLo studio)



浴室の樽風呂の提案



## 地域交流事業 19 2020 大垣ファッションフェスティバル 参加

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 中谷 友机子  
准教授 太田 幸一

主 催：学校法人 平野学園  
ヴィジョンネクスト情報デザイン専門学校  
清陵高等学校

後 援：岐阜県教育委員会、岐阜県繊維協会、岐阜婦人子供服工業組合  
岐阜市、大垣市教育委員会、大垣商工会議所

開催日時：令和 2 年 2 月 16 日（日）

会 場：大垣スイトピアセンター・文化ホール  
大垣市室本町 5-51

参 加 者：本学の学生 3 名

2020 大垣ファッションフェスティバルは、「The World Cheerleaders～世界のスポーツを応援しよう～」をテーマに、ダンスやパフォーマンス、オーディエンスウエーブ、ゴールシュートなど、様々なスポーツイメージの作品デザインコンテストを開催した。本学から学生 3 名が入選し参加したが、受賞までには至らなかった。しかし、学生達は楽しいスポーツマインドのデザインを制作し、制作研究として良い経験となったと考える。

## 2) 他大学交流事業

### 他大学交流事業 1 岐阜大学応用生物学部との連携教育 ～家畜飼育と衛生管理の実際～

担 当 者：食物栄養学科 准教授 堀 光代

主 催：岐阜大学応用生物学部、岐阜市立女子短期大学

開催日時：令和元年 10 月 18 日（金）9：15～16：10

会 場：岐阜大学応用生物学部附属家畜衛生地域連携教育センター（GeFAH）・岐阜フィールド科学教育研究センター

受講者数：食物栄養学科 2 年生 55 名

平成 27 年度から食物栄養学科の学生を対象とした衛生教育を岐阜大学との連携教育として行っている。目的は、家畜（牛・鶏）の飼育方法や衛生管理を実際に学び、私たちの身近な食品の衛生管理について実践的な知識を得ることである。

学生は、岐阜大学応用生物学部附属家畜衛生地域連携教育センター（GeFAH）と岐阜フィールド科学教育研究センターを訪問した。これまでクラス単位で 2 日間訪問していたが、今年度は新しい試みとして 2 クラスまとめて実施することとし、新しく加工実習（バター作り）も加えることができた。

当日は到着後、岐阜大学の教員から「岐阜大学農場の概要」と「草からミルクができるまで」の講義を 2 クラス全体で受講した。その後、講義室からフィールドセンターに移動した。前半のクラスは、岐阜県中央家畜保健衛生所の職員から防護服の着用について説明を受け、着用後に消毒方法を実践して 2 グループに分かれ牛舎と鶏舎の見学を行った。乳牛と卵用鶏の飼育方法と衛生管理等を担当者から聞き、実際に動物と触れ合う体験も行った。後半のクラスは、加工実習室に移動し、白衣、ヘアキャップ、マスクを身につけた。担当者から説明を受け、各自持参したペットボトルを用いてクリームをバターにする工程を体験した。その後、でき上がったバターを食パンなどに塗って試食も行った。昼休憩をはさみ、前半と後半のクラスが交代し、同様の見学と実習を行った。

牛乳や鶏卵は私たちが普段手軽に購入し、食卓に欠かせない食品のひとつである。これらが衛生的に生産管理され、安全性が確保されていること、食の安全のために何を行っているのかについて深く知ることができ、加工実習も体験することができた。学生からは「これまで何気なく手にしていた牛乳や鶏卵のことがより深く理解できた。」や「命の大切さを改めて知ることができ、感謝する気持ちを持つことができた」などの感想が多く聞かれた。

## 他大学交流事業2 岐阜大学 柳土演習林における、演習科目「生活造形演習」集中講義の実施

指導教員：生活デザイン学科 准教授 畑中 久美子  
岐阜大学 准教授 石田仁  
教授 河西栄二

期 間：令和元年 10 月 29 日（火）14:00～17:00  
11 月 19 日（火）10:30～16:10

会 場：岐阜大学 柳土演習林

受講者数：17 名

平成 25 年度より本学は、岐阜大学応用生物科学部と大学連携を行い、相互の教員、施設の連携や交流を図っている。この連携授業の一環として、本学の演習科目「生活造形演習」の集中講義を、岐阜大学柳戸演習林において、2 日間かけておこなった。本学の演習の課題は「演習林で採れた木材を使って、誰かのための木のスプーンをつくる」というものである。

1 日目は、演習林フィールドワークを、岐阜大学石田仁准教授と河西栄二教授の引率のもとに実施した。枝葉から杉、檜等の樹種を見分ける方法などを教わった。さらに、一人一種類樹木の特徴をスケッチし、要点をまとめた。さらに、技術職員青木氏による「鉋の刃物研ぎと使いかた」の講習を受けた。

2 日目は、本学と岐阜大学の「森と美術」履修学生の交流として、学生同士が制作中の木の作品を紹介し合ったほか、前回作成した樹木スケッチを岐阜大学学生分と併せて図鑑のように纏められたものが配布された。さらに、技術職員の指導のもと、チェーンソーの体験などを行った。



演習林の中、解説のもと樹木の立ち姿や枝葉を観察する様子

## 他大学交流事業3 ネットワーク大学コンソーシアム岐阜 「令和元年度 学生による地域課題解決提案事業」

担 当 者：国際文化学科 教授 川上 新二

食物栄養学科 専任講師 長屋 郁子

生活デザイン学科 助教 臼井 直之

生活デザイン学科 教授 服部 宏己（地域連携・産学連携部会 委員）

主 催：ネットワーク大学コンソーシアム岐阜 地域連携・産学連携部会

開催日時：令和元年12月21日（土）13：00～17：20

会 場：岐阜大学サテライトキャンパス（岐阜スカイウィング37 東棟4階）

受講者数：約18名（本学学生）

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜 地域連携・産学連携部会では、加盟校（岐阜県内の大学等24校）と市町村や企業との連携を深め、地域貢献や教育研究活動に資することを目的として、平成23年度より本事業を実施している。

本学からは以下の5件の提案があり、いずれも採択されるとともに成果報告会に於いて発表された。

○岐阜市立女子短期大学 国際文化学科

- ・岐阜市内周辺地区における活性化のための調査 ―一日市場地区の祭礼行事を事例として―

○岐阜市立女子短期大学 食物栄養学科

- ・プレ栄養士による災害時に備えた食生活のすすめ ～もしもの時のために、日頃から岐阜の野菜を～

○岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科 臼井研究室

- ・商店街の既存ビルの上層階を流動化するための調査・提案
- ・大規模開発予定地に挟まれたエリアの新たな展開を引き出すための調査・提案
- ・柳ヶ瀬商店街に服作りによるコミュニティを再興するための調査・提案

これらの経験を通して、地域連携活動の重要性の理解を深めるとともに、地域で活躍できる多くの人材が育つことを期待したい。



成果報告会での発表の様子

### 3) 産官学連携事業

#### 産官学連携事業 1 令和元年度 翔工房参加

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 中谷 友机子  
准教授 太田 幸一  
助教 柴田 佐和子

主 催：(公財) 一宮地場産業ファッションデザインセンター

開催日時：令和元年 6 月 3 日 (金) ～ 令和 2 年 2 月 21 日 (金)

会 場：一宮地場産業ファッションデザインセンター 他 尾州産地

参加者数：1 名

翔工房は、愛知県一宮市にある公益財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンターが主催する人材育成事業のひとつで、通算 11 回目を迎える中で、本学の参加は 8 回目である。今年度は、書類審査(5 月 16 日)とプレゼンテーション(6 月 3 日)の結果、26 名が選出され事業に参加した。その中、ファッション専修 2 年の学生 1 名が参加することに決まった。

数回の合同ミーティング、個々の講師と受講生の製作に関する打合せ、工場見学を経て、最終の成果は、令和 2 年 2 月 19 日～21 日に開催された、尾州テキスタイルの総合展「THE 尾州」での展示と、2 月 20 日(木)の「作品発表会 ～翔 the SHOW 2019～」において、ファッションショー形式で発表された。「colorful illusion」のテーマで参加した学生は、ムンカー錯視という同色でも配色により異なる色に見える錯視を応用したストライプとドットを組み合わせたデザインを提案し、ジャガード織で表現した。講師は、平山備氏である。

ファッション専修の 3 名の教員がプレゼンテーション、衣装デザイン、制作の面で指導を行った。





## 産官学連携事業2 スポーツウェアブランド「敬天粹人」ブランディングデザイン 2019

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 小川 直茂  
准教授 中谷 友机子  
助教 柴田 佐和子

開催期間：令和元年4月1日（月）～9月10日（火）

参加者数：生活デザイン学科 2年生 約10名

本事業は、2016年度より岐阜市のアパレルメーカー三敬株式会社との産学連携事業として継続的に実施しているプロジェクトである。今年度は、前年度に授業での取り組みで得られた商品企画案の内容を企業側でブラッシュアップし、実際の商品化に向けたフェーズに着手した。その結果、岐阜高島屋の協力を得て、受注生産体制での一般販売実現へと至った。8月3日（土）・4日（日）の高島屋主催イベントにおいて商品化に関する告知を行い、9月4日（水）～10日（火）の期間に岐阜高島屋フロア内にて受注販売を実施した。



### 産官学連携事業3 車純子氏 2020SS 素材トレンドセミナー

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 中谷 友机子

准教授 太田 幸一

主 催：岐阜県毛織工業協同組合、羽島市、岐阜市立女子短期大学

開催日時：令和元年4月16日（火）13：30～15：30

会 場：テキスタイル・マテリアルセンター

受講者数：生活デザイン学科2年生18名

（株）東洋紡 FPI で25年間紡績や原糸・テキスタイル開発に従事され、現在はフリーとして専門学校やファッション業界の人材育成に力点を置かれている車純子氏による「2020年 春夏カラー&素材傾向」セミナーを聴講した。2019年SS市場の素材傾向の特徴から2020SSトレンドカラーを分析、さらに2020年SSプルミエールビジョンのカラー&テキスタイル情報分析を聴講した。学生たちは2020年SSの明確な分析と現在のファッションの実状を読み取る、価値ある機会となった。

## 産官学連携事業 4 工場見学 紡績・製織工場訪問

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 中谷 友机子

准教授 太田 幸一

主 催：岐阜県毛織工業協同組合、羽島市、岐阜市立女子短期大学

開催日時：令和元年 5 月 21 日（火）12：30～18：20

会 場：東和毛織株式会社、株式会社維研、株式会社長谷川商店

受講者数：生活デザイン学科 2 年生 18 名

岐阜県毛織工業協同組合、羽島市との協定に基づき、生活デザイン学科ファッション専修 2 年生を対象に、愛知県一宮市の「東和毛織株式会社」「株式会社長谷川商店」江南市の「株式会社維研」の見学を実施した。

東和毛織株式会社は特殊梳毛の織編糸や手芸糸を生産している。紡績・撚糸工程を実際に見学することにより、繊維から糸が作られる工程を理解させることができた。株式会社維研ではジャカード織機によるカーテン地の生産を行っており、製織工程だけでなく、デザインの作業についても見学することができた。

株式会社長谷川商店は絹素材に特化した製品作りを行っており、シルクの特徴や撚糸、試編みなどの現場を見学することができた。

## 産官学連携事業5 岐阜市保健所との連携事業 ～自殺防止啓発のためのキャラクターデザイン

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 小川 直茂

開催日時：令和元年6月6日(木)～12月20日(金)

参加者数：生活デザイン学科 ヴィジュアル専修 1年生 26名

岐阜市保健所との官学連携事業として、若年層の自殺率低下を目指す取り組みとして、自殺防止啓発のためのキャラクターデザインの提案に取り組んだ。本内容を生活デザイン学科ヴィジュアル専修の1年次後期演習科目「イラストレーションⅡ」の課題テーマとして設定し、受講学生26名によるキャラクターデザイン案の提案を行った。

次年度以降、岐阜市保健所内での審議を経て、採用案となったキャラクターデザインの実運用を行っていく予定である。



## 産官学連携事業 6 工場見学 製織・染色仕上工場訪問

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 中谷 友机子

准教授 太田 幸一

主 催：岐阜県毛織工業協同組合、羽島市、岐阜市立女子短期大学

開催日時：令和元年 10 月 17 日（木）12：30～18：30

会 場：テキスタイル・マテリアルセンター、艶清興業株式会社、  
葛利毛織工業株式会社

受講者数：生活デザイン学科 1 年生 17 名

岐阜県毛織工業協同組合、羽島市との協定に基づき、生活デザイン学科ファッション専修 1 年生を対象に、愛知県一宮市の「艶清興業株式会社」および「葛利毛織工業株式会社」見学を実施した。

艶清興業株式会社は合成繊維を中心とした織物・ニットなどの染色整理加工を手がけている。この見学で染色整理加工工程の特徴を理解することができた。

また、葛利毛織工業はションヘルと呼ばれる自動織機で織った生地が主力製品である。生地は高級ブランドなどで使用されている。織物製造工程と毛織物の特徴について理解を深めた。

これらの工場見学により、繊維製品の製造過程を把握させることができた。



## 産官学連携事業7 車純子氏 2020AW 素材トレンドセミナー

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 中谷 友机子

准教授 太田 幸一

主 催：岐阜県毛織工業協同組合

後 援：(公財) 一宮地場産業ファッションデザインセンター、尾州テキスタイルデザイナー協会、日本毛織物等工業組合連合会

開催日時：令和元年 10 月 29 日 (月) 13 : 30 ~ 16 : 30

会 場：岐阜毛織会館 (テキスタイル・マテリアルセンター)

茶仙染工株式会社 (愛知県一宮市)

受講者数：生活デザイン学科 1 年生 17 名

春に開催された車純子氏「2020 年 春夏カラー&素材傾向」セミナーに引き続き、「2020 年~21 年 秋冬テキスタイルトレンドセミナー」を聴講した。2019 年の春夏の結果から 2019 年~20 年秋冬状況を分析、また 2020 年~21 年秋冬のインターカラーおよび JAFCA カラー情報などを解説された。さらに 2021 年春夏カラー提案速報などわかりやすく説明された。学生たちは最新情報を聴講し、分析の捉え方を再認識するセミナーとなった。

セミナー聴講後、茶仙染工を見学した。かせ染めとチーズ染めの違いや、かすり染めの方法など、糸染めの行程を実際の工場で見学した。匠講師の水谷仁氏による解説もあり、学生たちは実際に工場の工程を目にし、より理解が深め貴重な体験が出来た。

## 産官学連携事業 8 岐阜駅北口駅前広場完成 10 周年記念イベント 「信長公像マント制作」

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 中谷 友机子  
准教授 太田 幸一  
助教 柴田 佐和子

主 催：岐阜駅周辺活性化実行委員会事務局  
(岐阜市都市建設部駅周辺事業推進課内)

協 賛：マント制作  
岐阜ファッション産業連合会  
岐阜市立女子短期大学

開催日時：令和元年 11 月 16 日（土）（16：30～17：00）

会 場：岐阜駅「信長ゆめ広場」

デザイン：生活デザイン学科 ファッション専修 1 年生 伊藤あゆみ

岐阜駅北口駅前広場完成 10 周年記念イベントとして、岐阜ファッション産業連合会から、黄金の織田信長公像のマントデザイン依頼をいただいた。ファッション専修 1 年生 17 名の中から、伊藤あゆみさんのマントデザインが入選した。制作は岐阜ファッション産業連合会がおこなった。

11 月 16 日（土）（16：30～17：00）に、黄金の織田信長公像の新しいマントデザインのお披露目会が開催された。柴橋正直市長は、伊藤あゆみさんに感謝状を贈呈された。



## 産官学連携事業9 テキスタイルマテリアルセンターを教育機関とした地場産業の振興に関する協定に基づく産学連携事業 親子バッグ制作体験ワークショップ

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 中谷 友机子  
准教授 太田 幸一

主 催：岐阜県毛織工業協同組合

協 力：岐阜市女子短期大学、羽島市

開催日時：令和元年 11月23日（日・祝） 13:00～16:00

会 場：毛織会館（テキスタイルマテリアルセンター）  
羽島市竹鼻町蜂尻 448 番地

受講者数：親子 約 15 組 30 人

11月23日（日）に親子体験ワークショップを毛織会館でおこなった。

今回は楽しくバッグを制作する、また、自由にリメイクするオリジナルバッグ制作を企画した。テキスタイルマテリアルセンターにある生地を使用して、無地のバッグに、布用のボンドで貼り、オリジナルな柄やデザイン図案を制作するワークショップである。親子で様々なデザインを考案して、楽しいバッグ制作となった。

**参加費 無料** 令和元年度  
**バック・オリジナルリメイク制作**  
**～楽しく自由にリメイクしましょう！～**

国内最大級のテキスタイル資料館「マテリアルセンター」で、一緒にオリジナルバッグを制作しましょう！




お家にあるお気に入りの布やボタン  
でかざりつけるのもOK！

マテリアルセンター内もあわせてご案内します。




**開催日 11月23日（日・祝）**  
**時 間 13時00分～16時00分**

**会 場** 毛織会館/テキスタイルマテリアルセンター  
（羽島市竹鼻町蜂尻 448 番地）  
**定 員** 親子 15 組 30 人  
**参加費** 無料

- ・体験に必要な材料、道具は主催者が用意します。（持ち込み可）
- ・出来上がった作品はお持ち帰りいただけます。
- ・優秀な作品を表彰します。表彰の方にはお菓子などをプレゼント！

**申込受付期間 9月24日（火）～11月6日（水）**

☆参加希望の方は、上記受付期間内に電話にてお申し込みください。  
※定員に達し次第、受付を終了させていただきます。

お問い合わせ先  
 テキスタイルマテリアルセンター  
 TEL 058-391-8511 <https://matesen.com/>





昨年とは多くの親子にご参加いただきました！  
 ありがとうございます！  
 た（＾＾）

主催：岐阜県毛織工業協同組合 協力：岐阜市立女子短期大学・羽島市

## 産官学連携事業 10 ウール講座 布の仕上げ加工と風合い

主 催：岐阜県毛織工業協同組合、羽島市、岐阜市立女子短期大学

開催日時：令和元年 11 月 29 日（金）12：30～17：30

会 場：テキスタイル・マテリアルセンター（岐阜県羽島市）

受講者数：生活デザイン学科 1 年 17 名

布の仕上げと風合い・質感についてテキスタイルデザイナー 2 名から講義を受けた。講師は、(有)カナーレ社長 足立聖氏と(株)イワゼン社長 岩田善之氏である。

足立氏からは、製作した様々な素材のテキスタイルを学生に示しながら、デザインの発想や、製織・仕上げ方法についての講義があった。テキスタイルについては実際のブランドでの商品化の事例説明もあり、学生は、実物に触れながら講義を聴くことができ、テキスタイルの魅力に触れることができた。

岩田氏からは、テキスタイルを作る糸の種類、織り組織と実際の織物との関連についてや、ジャカード織を織るための紋紙などを見せていただいた後、これまでに手がけてきたテキスタイルの紹介とともに、依頼したデザイナーについても講義があった。ファッションデザイナーがどのようにテキスタイルデザイナーと情報共有を行い、オリジナルの生地を作り上げていくのかについて、学生は興味を持って聴講していた。

## 産官学連携事業 1 1 Tweed Run Bishu・Hashima 2019

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 太田 幸一

主 催：Tweed Run Bishu・Hashima 2019 実行委員会

開催日時：令和元年 11 月 30 日（土）

会 場：岐阜県羽島市市街・コスモパーク羽島・不二羽島文化センター

参加者数：生活デザイン学科 2 年生 2 名

ツイードをドレスコードに、おしゃれをして街を自転車で走る「ツイードラン」は、ツイードの国・イギリスのロンドンで 2009 年にスタートしたイベントである。世界各都市でも開催されており、日本でも東京と繊維産業の全国三大産地である尾州産地の都市で毎年開催されている。今回岐阜県での開催は初めてであることから、産地振興への協力として学生が自作のツイードコーディネートを制作し参加。ファッションショーにも取り組んだ。

ドレスコードが毛織物の一種であるツイードであるので、学生はファッション造形演習Ⅲで制作したツイード使いのジャケットをベースに自転車の街乗り用のコーディネートを整えた。くまのぬいぐるみやヘルメットカバーなどを作成し参加した。なお、学生指導については村上眞知子名誉教授にもご協力いただいた。

## 産官学連携事業 12 岐阜マザーズコレクション

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 中谷 友机子

准教授 太田 幸一

助教 柴田 佐和子

主 催：一般社団法人 岐阜ファッション産業連合組合

共 催：岐阜シャツプロジェクト × TonyaEXP0

後 援：岐阜市

開催日時：令和元年 11 月 30 日（土）15：00～

会 場：じゅうろくプラザ・2 階（岐阜市文化産業交流センター）

参 加 者：本学 入選者 2 名

岐阜アパレルメーカーと未来のデザイナーを目指す学生とのコンテスト形式の産学共同コラボレーション支援事業である。今年は第 10 回記念の特別イベントとして、ファッションショー当日に各賞の発表と授賞式を行った。全国から 140 人が参加し、本学ではファッション専修 2 年小西佑奈さん、岩田友花さんが入選した。

テーマは『Sweet 10（テン）～ありがとう、これからもよろしく～』、お母さんに特別な日に着てほしいスタイルを提案するデザイン制作である。

審査の結果、小西佑奈さんがグランプリ賞「GMC 賞」（野田聖子賞）を受賞した。同賞の副賞として「POLIMODA」（フィレンツェ）1 ヶ月間特別留学（2020 年 7 月の予定）が授与されることになった。



グランプリ賞 小西佑奈作品（プロモデル着用）



## 産官学連携事業 13 こどものもり～岐阜市民病院 リノベーションプロジェクト 2019

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 奥村 和則  
准教授 小川 直茂  
専任講師 坂本 牧葉  
助手 深尾 茉里

開催期間：令和元年 12 月 27 日（金）～令和 2 年 2 月 28 日

参加者数：生活デザイン学科 ヴィジュアル専修 1 年生 20 名

本事業は、2015 年度より岐阜市民病院との産学連携事業として継続的に取り組んでいるプロジェクトである。今年度は 1 階救急診療部の小児医療スペースを対象として、3 室（診察室、乳児点滴室、幼児点滴室）の壁画制作に取り組んだ。

なお、壁画の彩色作業に取りかかる 2 月下旬に新型コロナウイルスの感染拡大に係る問題が深刻化したため、2 月 28 日の時点で制作作業を一時中断した。作業の再開時期は現時点で未定（次年度以降、新型コロナウイルス問題の終息後を予定）である。



## 4) 高大連携事業

### 高大連携事業 1 「中国文化論」

主 催：国際文化学科

開催日時：平成 31 年 4 月 8 日～令和元 8 月 5 日 14:40～16:10

(隔週月曜日 14:40～16:10 合計 7 回)

会 場：岐阜市立女子短期大学

受講者数：77 名（国際文化学科 1 年生 62 名、岐阜市立岐阜商業高等学校 15 名）

この講義は、中国の少数民族、食文化、茶文化、大衆文化などの側面から中国を観察し、中国の文化に触れてもらうことが目的としている。中国には漢民族以外に 55 の少数民族があり、それぞれの民族は独自の文化や習慣をもっている。中国における少数民族の社会や文化を考察しながら、中国社会の多様性を概観した。

この科目は、岐阜市立岐阜商業高等学校の連携授業で、同校から毎回 15 名の生徒が教員 1 名の引率で岐阜市立女子短期大学へ来学し、国際文化学科 1 年生と共に受講。最終回の授業アンケートによると、授業の雰囲気について「高校生と一緒に授業を受けることで、互いが刺激され、考え方を知ることができた」、「違う目線での意見を知ることができてとてもいいと思う」などの声が多かった。一方、高校生たちから「高校で学べないことが学べた」、「大学生の方たちと一緒に考えたり、話をしたりして、大変勉強になった」など、高大連携授業に対して双方から高い評価が得られた。

## 高大連携事業 2 中国語合同発表会(合計 2 回)

主 催：国際文化学科

開催日時：令和 2 年 1 月 15 日（水） 10：40～12：10

令和 2 年 1 月 27 日（月） 13：00～14：30

会 場：岐阜市立女子短期大学

受講者数：78 名（国際文化学科 1 年 B クラス 31 名、2 年生 32 名、岐阜市立岐阜商業高等学校 15 名）

令和 2 年 1 月 15 日に「中級中国語会話Ⅱ」（国際文化学科 2 年生の履修科目）、と 1 月 27 日に「初級中国語Ⅱ」（国際文化学科 1 年生の履修科目）岐阜市立女子短期大学国際文化の学生が、岐阜市立岐阜商業高等学校の生徒と中国語の合同発表会を行った。発表内容は事前に大学生と高校生に知らせ、暗記してもらった。発表時間は一人 2 分以内で、高校生も大学生も発表を熱心に聞いていた。お互いによい刺激を与え合った合同発表会になり、今後も継続してほしいという声が多かった。

### 高大連携事業3 情報処理「卒業研究」合同発表会

講師名：国際文化学科 教授 木村充位、専任講師 松浦康之

開催日時：令和2年1月23日（木） 13:00～16:10

会場：岐阜市立女子短期大学

受講者数：国際文化学科2年生21名・岐阜市立岐阜商業高等学校2年生10名

令和2年1月23日（木）3・4時限目に情報処理専門の木村ゼミ・松浦ゼミ所属の2年生21名と岐阜市立岐阜商業高等学校経営管理科2年生10名で合同の「卒業研究」発表会を行った。本学の学生はExcelのマクロを使ったプログラムで作成した自作のゲームやホームページ上で動くJavaScriptを用いた自作のゲームの紹介をした。高校生もExcelのマクロを使って作成してきたゲームを紹介した。高校生・大学生ともにお互いの作品発表を熱心に聞いており、刺激をし合えるいい合同発表会になった。

## 5) 出前講座

### 出前講座 1 食と健康「健康で過ごすための食生活とは」

主 催：木ノ本長寿会

講 師 名：食物栄養学科 専任講師 山田 紀子

開催日時：平成 31 年 4 月 19 日（金）10：30～11：00

会 場：木ノ本公民館

受講者数：26 名

食と健康「健康で過ごすための食生活とは」をテーマに、出前講座を行った。長寿会の方々を対象に、介護を必要とせず過ごすための食事等について講演した。講演の内容は、1. 平均寿命と健康寿命について、2. 要介護者になる原因が①脳血管疾患、②認知症、③高齢による老衰であること、3. 要介護を防ぐためには、生活習慣病を予防すること、筋肉を維持すること、4. 加齢による体内の状態の変化にともなう栄養上の問題について改善できるよう努めることの大切さ、5. 筋肉を維持するために必要は栄養について、6. 運動は健康を維持するうえで有効的あること、7. 栄養と運動は別々に行うのではなく、栄養療法と運動療法を併用することでより効率的に要介護を予防し、健康管理ができることであった。

今回の講演の対象の方の年齢は 70 歳代から 90 歳代と幅広く、平均寿命をすでに超えている方も少なくなかった。それにも関わらず、肌の艶もよく、お元気であった。社会に目を向け、健康に関心をもって生活されていることの重要性を感じ取ることができた。

## 6) 出張講座

### 出張講座 1 丹羽高校出張講義

講師名：生活デザイン学科 准教授 小川 直茂

主催：愛知県立丹羽高等学校

開催日時：令和元年 7 月 11 日（木）13：00～16：00

会場：愛知県立丹羽高等学校

受講者数：39 名

高校 2 年生を対象とし、デザイン分野全般に関するイントロダクション、およびデザイン分野の進路を選択する上で必要な取り組みや心がけなどについて授業を行った。授業は前半・後半の 2 回に分けて行い、授業の参加者数は計 39 名だった。授業の実施を通して、高校生にデザインに関する基本概念の理解を促すと同時に、生活デザイン学科の特徴についても紹介した。



## 出張講座2 生活デザイン&ファッション講座 ウール素材のオリジナルなマフラー・ファッション制作「ウール素材にニードルで羊毛や布を付着させて、素敵なマフラーを制作しましょう」

講師名：生活デザイン学科 准教授 中谷 友机子

開催日時：令和元年 10 月 5 日（土）13：30～15：00

会場：ファッションライブラリー

（ハートフルスクエア—G 1 階 岐阜市橋本町 1-10-23）

受講者数：9 名

今回のワークショップは、ニードルで羊毛や布をウール素材に付着させて、オリジナルな柄やデザインをあしらい、素敵なマフラー制作の講座を企画した。

素材は圧縮ウールジャージを使用、切りっぱなしでもほつれたりしないため、羊毛をニードルで付着するには、とても適している素材だった。

受講者は、それぞれに素敵なマフラー制作を仕上げた。

岐阜市立図書館  
生活デザイン&ファッション講座

ウール素材のオリジナルな  
マフラー・ファッション制作

講師：中谷 友机子 氏  
(岐阜市立女子短期大学  
生活デザイン学科 准教授)

ウール素材にニードルで  
羊毛や布を付着させて、  
素敵なマフラーを制作しましょう

日時：2019年 10月5日(土)  
午後1時30分～3時

場所：ファッションライブラリー  
(ハートフルスクエア—G 1階 岐阜市橋本町 1-10-23)

定員：15名

持ち物：ハサミ、洋裁道具、筆記用具など

受講料：無料(ただし材料費代として500円を別途負担)

申込み：2019年 9月22日(日) 午前9時より、  
岐阜市立図書館分館のカウンターまたは電話にて受付。(先着順)

▼▼ファッションライブラリー10月の展示▼▼

【マイブランド・プラン構成マップ制作】

企画からショップまでのマーチャンダイジングを立案します。

出展者：岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科 ファッション専修 2年生  
岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科 2018年度卒業生 卒業生作品展

日 時：2019年10月9日(水)～10月27日(日)

入 場 料：無料

開館時間：午前9時～午後9時

場 所：岐阜市立図書館 分館 ファッションライブラリー

問い合わせ：〒500-8521 岐阜市橋本町 1-10-23  
(JR岐阜駅東高地下 ハートフルスクエア—G 1階)  
岐阜市立図書館 分館 電話(058)268-1061

### 出張講座3 生活デザイン&ファッション講座「ロープワークでコースターを作ろう」

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 太田 幸一

主 催：岐阜市立図書館分館

開催日時：令和元年11月2日（土）13：30～15：00

会 場：岐阜市立図書館分館 ファッションライブラリー

受講者数：6名

岐阜市立図書館分館での生活デザイン&ファッション講座は、今回は志向を変えてロープを使ったコースターの作成に取り組んだ。ロープワークは船乗りやアウトドアなどで使用するロープの結び方のことで、棒にロープを縛り付けたりするだけでなく、クラフト作品も作成できることから、カラーひもでコースターなどに使えるマットを作成した。手芸好きの女性が参加し、普段扱っている手芸素材に比べてハンドリングが悪く、コツをつかみづらい様子であったが、楽しく作品の制作に取り組んでもらえた。

## 7) その他連携・交流事業

### 第 60 回全国大学・高専卒業設計展示会

担 当 者：生活デザイン学科 教授 服部 宏己  
准教授 畑中 久美子  
助教 臼井 直之

主 催：一般社団法人 日本建築学会  
開催日時：令和元年 6 月 28 日（金）10：00～16：00  
会 場：岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科 3-411 演習室  
受講者数：61 名

建築・インテリアを学ぶ学科では、多くの学生が卒業年度にその集大成となる卒業作品を設計し模型を制作する。本事業は、北海道から沖縄まで全国の大学・短大および高専において、最も優れた卒業作品を選んでそれらの優秀作品を一ヶ所に集結し、一年間かけて全国を巡回する催しである。ここで、模型などを含んだ作品では運搬や展示が困難になるため、5 枚程度の A2 サイズのパネルにまとめている。今年度は、全国から 167 作品が集められ、35 会場を巡回した。東海エリアでは、名古屋会場と本学のみで開催であり、普段見ることのできないこれらの優秀作品群を、本学においてじっくりと見ることができ貴重な機会となった。

これらの卒業設計作品は、全国から集められていることから、地域や文化の違いを見ることができ、また数も多いことから見学をした学生一人ひとりが様々な側面から刺激を受けていると感じられた。この貴重な機会を通して、学生自身の今後の作品制作や卒業作品に活かされることを期待したい。



卒業設計展示の様子

## 【各務原市役所まちづくり推進課】まちづくり担い手育成支援事業

主 催：各務原市役所まちづくり推進課

開催日時：令和元年 6 月 29 日（土）15：00～17：00 以降 5 回開催

会 場：KAKAMIGAHARA OPEN CLASS（イオンモール 2 階）

参 加 者：国際文化学科の学生 5 名・食物栄養学科の学生 2 名

各務原市のまちづくり担い手育成支援事業について、本学の国際文化学科卒業で各務原市役所のまちづくり推進課で働く OG から、本学の学生にその事業へ参加して欲しいという要請があり、その事業の趣旨の打ち合わせが、その OG と本学教員とともに本学で行われた。事業内容を本学教員が学生に説明し募集をした結果、7 名の学生が参加した。

学生は上記の開催日時で規格外野菜の廃棄状況や発生時期を調査して、規格外野菜を使ったカフェメニュー作りを体験した。12 月 7 日の「まちづくり活動はじめての会」では、学生が今勉強していることを踏まえ、今後のまちづくりに関わる決意を語った。各務原市のウェブサイトにもその様子が掲載された（URL は以下）。

<http://www.city.kakamigahara.lg.jp/life/shiminsanka/14349/29744/032795.html>

## 「ことばの変化をたどる」

主 催：英語英文学科

開催日時：令和元年 12 月 13 日（金） 14：40～16：10

会 場：岐阜市立女子短期大学 大講義室（1-501）

受講者数：約 60 名

英語英文学科では、国内外で活躍されている先生を外部からお招きし、毎年特別講義を開催しています。今回は、三重大学教育学部教授の西村秀夫先生にお越しいただき、「ことばの変化をたどる」という演題でご講義いただきました。先生は英語学特にコーパス言語学・英語史研究の権威です。我々が普段使うような、身近な日本語や、英語におけることばの変化をコーパスの分析を通してたどる講義は大変分かりやすく、ことばを学んでいる学生たちにとって非常に有意義なものとなりました。

